

## 資料紹介

# 『岩国基地と米軍犯罪 1969～1998 新聞資料集成』

アジア現代女性史研究会では2006年10月、研究資料として『岩国基地と米軍犯罪 1969～1998 新聞資料集成』を発行しました。その経緯について詳しくは本誌末尾の「編集後記」をご覧ください。以下に同資料集の「編集にあたって」を再録し、資料の紹介とします。

## 編集にあたって

米軍再編が世界各地で推進されている。米軍基地を抱える山口県岩国市では、沖合に滑走路を建設する基地拡張計画が長年議論の的であった。が、近年の在日米軍再編計画のなかで、従来の基地拡張計画の続行はもとより、厚木基地に配備されてきた空母艦載機の移転が新たに求められることになった。岩国市民は2006年春、住民投票によってはっきりと反対を表明したが、米国・日本両政府は依然としてその計画を断念していない。

ここに収録した330点の新聞資料は、岩国市議・田村順玄さんが、基地問題に関して長年にわたって各紙から切り抜き、保管してきた資料の一部である。

見出しを一覧するだけでも、殺人、強姦、強盗、窃盗、放火、暴行、轢き逃げ、麻薬・覚醒剤、銃器流出、と、基地の街・岩国の人々が無数の米軍の犯罪と暴力にさらされてきた歴史と現在が察せられる。基地が周辺で暮らす人々の命と暮らしにどのような被害を与えてきたのか、これらの資料は物語っている。米軍基地・米軍再編問題を、このような基地周辺住民の経験と離れて考えることはできない。

米軍基地問題は、地域住民の視点と同時に、女性の視点からも洗い直される必要がある。

1995年の沖縄で小学生女子が集団レイプの被害に遭った事件は、沖縄はもとより日本「本土」においても大きなショックを与え、日米安保体制に対する新たな批判の渦を巻き起こした。が、米軍性暴力事件はその後も絶えることなく、今日なお沖縄でも日本「本土」でも続いている。

女性の人権に対する社会の意識が多少進歩してきたとはいえ、今日も性暴力が被害女性の泣き寝入りで終わることが一般に多い。まして、日米安保体制に守られた米軍の性暴力は、無数に引き起こされているにもかかわらず、そのほとんどは闇に葬られてきた。

米国が主導する世界戦略に従って対テロ戦争の正義・日米の軍事同盟強化の正義が盛んに宣伝される一方で、基地周辺で米兵の暴力によって心身に傷をおった女性たちの正義は無視されている。

ここに収録した地方新聞や全国紙地方版の記事には、ついで全国的には報道されなかった女性たちの受難が多くふくまれている。これら基地周辺住民の女性の受難が全国的に報道されてこなかったことを重く受けとめなければならない。田村さんのご厚意でこれらの資料に接することができた私たちは、岩国に相次いで起こった強姦殺人事件さえ、地元でしか報道されてこなかったという事実により二重のショックを受けた。米軍

基地・日米安保体制という問題は、女性の人権と無縁に論じられるべきでない。

このように考えて、本資料集には「軍事基地と女性」ネットワークの関係資料をも収録した。

この資料集が、基地の周辺で暮らす人々の苦難に思いを馳せる手がかりとして、米軍再編・基地問題・女性の人権問題に関心を寄せる人々に、役立つことを願っている。

編集委員会代表 藤目ゆき

## 内容

「岩国基地と女性の性被害 ～米兵犯罪の裁判傍聴の取り組みを通して考えること～」麻田和恵

「岩国基地を訪ねて」森一女

「山口地裁岩国支部・裁判長宛申し入れ文」

「日米韓国軍事同盟と女性の人権：岩国基地の米兵による女性に対する犯罪」藤目ゆき

「東アジアの軍事基地と女性：『歴史と現在を問う』講演と報告」黒田薫

「憂慮する日比民衆の共同声明」藤目ゆき

「憂慮する日比民衆の共同声明（原文）」

岩国基地関連 新聞記事資料：1969～1998（掲載記事一覧表・新聞スクラップ）

